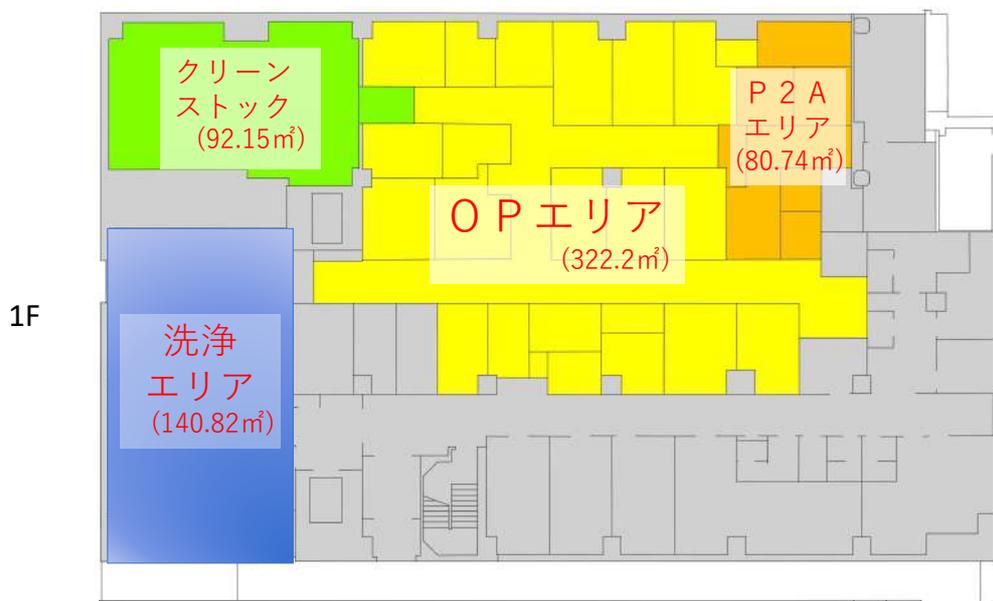


兵庫医科大学 病態モデル研究センター

Center for Comparative Medicine

1

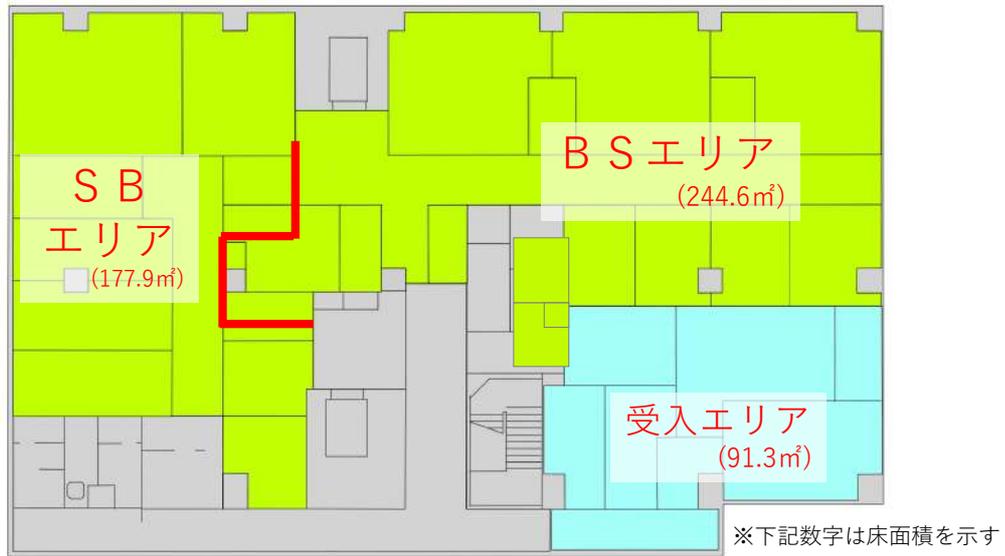


※下記数字は床面積を示す

- ・ OPエリア
一般のSPFエリアと同様のスペックですが、使い勝手を優先し、入退のハードルを下げています。放射線関連機器や行動実験室があります。
- ・ P2Aエリア
P2Aレベルの遺伝子組換え実験及びBSL2レベルの感染実験を行います。
- ・ 洗浄エリア
飼育機材の洗浄・滅菌を行います。滅菌物はクリーンストックに保管します。

2

2F



- ・ BSエリア
最も高い微生物学的グレードでの繁殖・維持を目的とし、繁殖した実験群をSBエリアやOPエリアに移動させて実験できるよう考えられています。この場所への受入は胚の状態で行い、当施設で胚移植を行って得られた産仔をエリアへ導入する体制となっています。
- ・ SBエリア
BSエリアで繁殖された動物や、ブリーダーから購入した動物での実験が可能なエリアとしています。
- ・ 受入エリア
外部機関から搬入される動物の微生物状況を検査し、感染などが見られた場合は体外受精にてクリーンアップしBSエリアへ導入します。

3

飼育可能動物種と最大収容ケージ数

	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	カエル
BSエリア	1869	0			
SBエリア	813	168			
OPエリア	595	390	16	24	8水槽
P2Aエリア	206	35			
受入エリア	63	24			

4



BS・SBエリア

IVCシステム飼育ラック

5



OPエリア

一方向気流制御ラック（アイラック：ダイダン）

6



BS・SBエリア

ケージ交換ステーション

7



その他の飼育装置

イノラック：オリエンタル技研
ディスポーザブルケージ使用のIVC

化学発癌、有害物質投与実験等に使用

8



BS・SB・OPエリア

SDダクト+陰圧実験台（ダルトン）、プッシュプル実験台（興研）

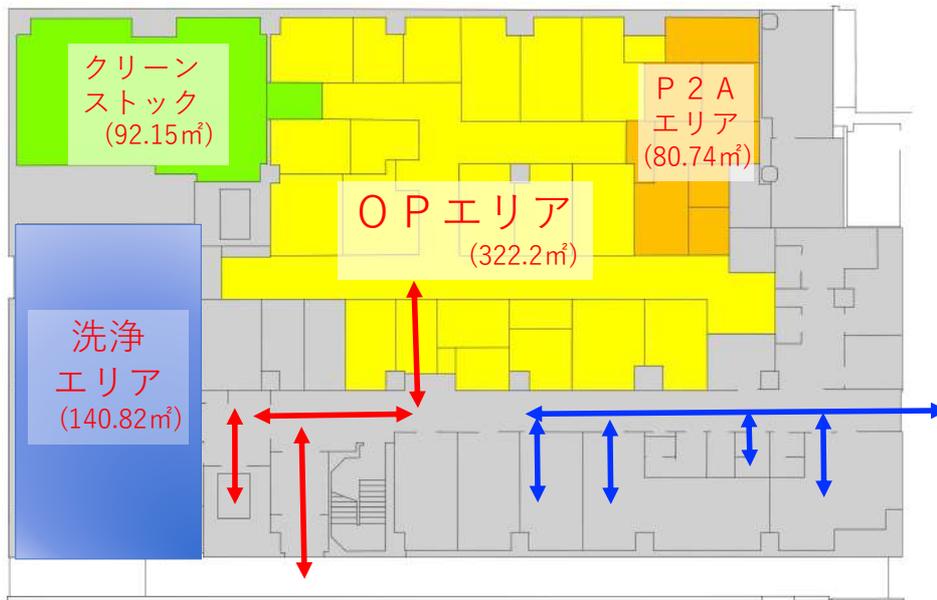
9



OPエリア（ウサギ）

一方向気流制御システム（陰圧飼育ラック：夏目製作所）

10



※下記数字は床面積を示す



動物は外部からは専用のパスルームから出入りし、各エリアにも専用のパ
スルームから出入りする。事務職員の動線上を動物が移動することは無い
実験者、飼養者はエリア専用着衣のまま、事務室には行けない